つなぐ橋

気ぜわしい、今の暮らしの中では、
橋は単なる通過点。
橋を渡るときに、ゆっくり川を見ることも
滅多にありません。

ところが川を船で行くと、
橋は渡るだけでなく、
くぐるものでもあった、
ということを思い出します。
船が橋をくぐるたびに、
橋の上の人と、船でくぐる人が
笑顔を交わし、手を振り合います。
思いがけない一期一会は、
橋がハレの場であることを
再認識させてくれます。

もちろん、線路や道路を渡る橋もあります。
越し難い何かをまたいで、
こちら側と向こう側をつなぐのが橋の役目。
比喩として
〈架け橋〉ともいうように、
何かをつなぐ、
大切な働きをしているのです。

橋のある所には、
人が引き寄せられ、賑わいが生まれ、
ドラマが繰り広げられます。
渡るという機能以外の
そんな橋の魅力を探してみました。

水の文化 47号 2014年6月
特集「つなぐ橋」

土木技術者が読み解く橋の歴史の魅力　松村博　4
帝都復興における橋とデザインの思想　中井祐　8
ペデストリアンデッキの登場と駅前空間の変化　五十畑弘　12
モンゴルと日本をつないだ大陽橋　小林厚　16
長崎・眼鏡橋復元の物語　片寄俊秀　18
橋から省みる水都大阪の再生　藤井薫　24
橋上の賑わい空間復活の可能性　藤本英子　28
川がない橋が秘めた東京の履歴　斉藤理　32

わたしの里川
川医者の里川診断　島谷幸宏　38

水の文化書誌
石橋・眼鏡橋のある風景　古賀邦雄　40

Go!Go!109水系
神荒ぶ よみがえりの熊野川　坂本貴啓　42

文化をつくる　つなぐ橋　編集部　49

里川文化塾お知らせ　50

次号予告・編集後記　51